

第1回 三田市環境審議会「生物多様性さんだ里山戦略（仮称）」  
策定検討部会委員への意見聴取会  
会議概要

会議の名称	第1回 三田市環境審議会「生物多様性さんだ里山戦略（仮称）」策定検討部会		
会議の日時	令和4年7月25日（月）10：00～12：00		
会議の場所	三田市役所 3階 302B 会議室		
出席した委員の氏名	石田弘明委員（環境審議会委員、策定検討部会長） 三橋弘宗委員（専門委員） 谷本卓弥委員（専門委員） 吉田滋弘委員（専門委員）		
出席した庶務職員の職及び氏名	事務局	まちの再生部	久高部長
		ゼロカーボンシティ推進室	辻下室長
		里山のまちづくり課	田中課長、岡野
		(公財)ひょうご環境創造協会(委託業者)	藤井、日野、諸井
傍聴人の人数	0名		
取材者の人数	0名		
内容	1 開会・あいさつ 三田市まちの再生部 久高部長 2 部会の成立について 本日の部会は定足数の過半数に達していないため、意見聴取会として開催 3 部会長の紹介 環境審議会会長からの指名で本部会の部会長に石田氏が就任 4 出席者の紹介 5 市からの説明 6 その他 7 閉会		
会議の概要	「生物多様性さんだ里山戦略（仮称）」策定について、資料に基づき説明を行い、それに対する質疑及び意見を伺った。		
公開・非公開の区分	公開		
使用した資料の名称	資料1：配席図 資料2：関係者名簿 資料3：三田市が考える「生物多様性さんだ里山戦略（仮称）」の策定方針 資料4：戦略目次案 資料5：三田市の自然環境と社会的状況の現状と課題 資料6：重要な生態系の一覧表 資料7：世界・国・県の動向 資料8：アンケート案 〈参考資料〉 ・第3次三田市環境基本計画アンケート調査結果報告書 ・未来に伝えたい三田の自然～生態系レッドデータブック～ ・生物多様性戦略策定に向けた基礎調査業務委託報告書（平成31年3月） ・三田市で確認されている希少な動植物 ・三田市で確認されている外来生物		

○報告内容

事務局	〔資料3〕「三田市の考える「生物多様性さんだ里山戦略（仮称）」の策定方針」に基づいて説明)
委員	最終的な成果物はどんなものをイメージしているのか。
事務局	紙と電子媒体と両方であるが、まずは電子媒体を先行して公開を考えている。概要版も作成する。生物多様性は専門的知識に偏りがちになるが、市民のみならずが読みやすいものを概要版として提示したい。
委員	第5次三田市総合計画、第3次環境基本計画はもうすでにあるのか。
事務局	今年4月に第5次三田市総合計画は策定された。環境基本計画は、現在見直し中である。今年度に、生物多様性戦略と第4次三田市環境基本計画を策定する。
事務局	〔資料4〕「戦略目次案」に基づいて説明)
委員	この目次の中で三田市の戦略はどこに書いてあるのか。戦術は書かれているが、具体的な戦略も書いておくべき。
事務局	目次案は、教科書通りに書いている。戦略は「目指すべき将来像」で市民に示して周知していく。また、「三田市里山の保全と活用に関する行動計画」には、戦略が込められているので、これを紐づけていく。里山保全をOECDに結びつけるようにしたい。
部会長	今後、具体的な中身で戦略と戦術を明確に書き分けていくこととする。
委員	目次案の第1章と第2章は、後で書ける内容である。まずは、将来像や目標を定めてから、実現する施策を決めていくバックキャストの手法で行い、第3章、第4章の内容を先に検討するのが良い。
委員	リーディングプロジェクトに関しては、資料3にすでに素案があるため、これを詰めていく。従来の戦略では、希少種や生態系サービスなどが主であったが、新たな国家戦略のなかでは、文化や治水、農業など複数の政策手法を組み合わせていく方針となっている。また世界的にもNature-based Solutions <sup>※</sup> が基軸となっているので、そこに里山を位置づけたほうが市民にも受け入れられやすいものになるし、生物多様性が社会インフラの機能を果たすという意味での主張になるのではないか。
委員	<p>※自然を基盤とした解決策</p> <p>市はゼロカーボンシティを宣言しているため、廃棄物の処理基本計画や農業関連など複合的に、各施策がカーボンニュートラルと連動していることも第3章に明記しておくことが肝心である。総務省、内閣府の予算を各施策に使うのであれば、庁内連携、総合的な取り組みがわかる章を追加するなどして整理しておくこと各種予算要求や計画のアップデートも容易である。</p>

事務局	<p>いただいたご意見を参考にして、他計画とも関連づけて取り組んでいくようにする。</p>
部会長	<p>ゼロカーボンシティの部会においても、バイオマスエネルギーの活用、薪ストーブなども話題に上がっており、それらとの連動を図っていくことも必要である。資料3ではゼロカーボンシティのことには触れられていないので、それらとの整合性を図っていくと明記することも必要である。</p>
事務局	<p>(〔資料5〕「現状と課題について」に基づいて説明)</p>
部会長	<p>他の自治体の多様性戦略をみると、地域を複数の地区に分けて、地区ごとに現状と課題を整理するやり方がよくある。三田市でもその方法が良いのではないかと。三田市は広いので、市民の方々が読んだときに、自分たちが何をすればいいのか、地域の現状や課題が分からない。なるべく住んでおられる方が、自分ごととして捉えやすいように、地区が見えるような形にしておくのが良い。</p>
委員	<p>豊岡市では小学校区、場合によっては中学校区でまとめている。小学校区は数多くて煩雑になるので、小中学校区が良いだろう。データは国土数値情報からダウンロードできるので、地図に重ねれば簡単にできる。小学校区は、地域の結束やイメージとして自分ごとにしやすいというメリットがある。</p>
事務局	<p>「未来に伝えたい三田の自然～生態系レッドデータブック～」は小学校区で設定しているので、これに準じるなど、地域区分のあり方を検討する。</p>
委員	<p>課題の中で外来種の問題に触れられていない。池にはオオクチバス、里山林にはアライグマ、河川でも外来種が希少種の魚を食べていることやヌートリアが荒らしているなど、それらの問題が抜けている。</p>
委員	<p>アライグマ・ヌートリアは全県的にデータがある。県の植生衰退度の推定で三田の位置づけが分かる。利用できるデータはたくさんあるので、利活用して欲しい。</p>
部会長	<p>そのような農業被害のデータを関係部署から情報収集し、課題を整理する必要がある。</p>
委員	<p>外来生物被害のうち、クビアカツヤカミキリなど農業生産に直撃が懸念されるものについては、緊急時の対応について市の計画・体制、実際の整備状況を記載しておくことが重要である。</p>
部会長	<p>三田市は今年度から「三田さくら物語」というサクラを活かした町づくりを始めている。クビアカツヤカミキリは脅威であり、何かしら触れておくことが必要である。</p>

委員	外来種についてであれば、家庭で何をしてほしいか。例えば、子供がアメリカザリガニを捕まえてきたらどうすればいいのか、オオキンケイギク対策など、どうすることが正しいのか、法的なことも含めて市として示してもらいたい。また、企業は何ができるか。例えば、希少種の保護地として協力することができる、というようなことが載せられると良い。
部会長	活動する団体の高齢化の進行、会員数の減少なども重要課題であり、記載しておくのが良い。
委員	参加者が増えない実態があるので、正会員にならなくても、リタイアした人に限らず、現役の人、若い人が自分の都合の合うときにだけ参加する方法もあるのだということを伝えたい。
事務局	([戦略の行動計画案]について意見聴取)
部会長	リーディングプロジェクトに3つ挙げられているほかに、普及啓発や担い手育成など、人間に関する戦略も重要で、大きな柱の一つとして位置付けたほうがいいのではないか。保護区を設定して、OECMの認証を目指すとしても、その管理すべてを行政はできない。市民の方など民間の力を借りるためには、普及啓発や担い手育成は必要である。
委員	OECMの資料については、またみなさんと共有するようにする。インセンティブが一番の問題である。具体的には、里山や都市公園、あるいは文化財施設の周りの森や企業の森、川の氾濫原に相当する遊水池なども OECM に設定するなどが考えられる。国家戦略でいうシナジー効果、環境基本計画ではポリシーミックスと書かれているが、企業の出資やカーボンニュートラルなど TCFD と TNFD を踏まえた複雑な構図をいかに簡単に説明するのが、今の日本の戦略のキーとなっている。
委員	OECMとして、都市公園と有機農法(特A指定、低農薬など)を行っているところも想定できるので、地図に加えて積み上げていき、次の部会時に報告してもらえるといい。設置のハードルは、生物面よりも、ガバナンス面でそれなりに高いと思う。
事務局	リーディングプロジェクトの3。「里山・里海のつながりの確保ー市を超えた広域連合」においては、海についてのオフセットも視野に入れている。
委員	流域連携では、沿海部周辺のブルーカーボンの確保などがある。都市部の臨海部はブルーカーボンの対象になっているが、整備されたら、都市部の各市自体が担保したいという思いがあるだろう。そういう意味では流域外の自然海岸のある日本海側や西播磨方面の自治体との連携のほうが親和性は高い。将来的に、ブルーカーボンニュートラルの議論と OECM の議論を上手く連動させることも想定して触れておくのが良い。それについては、トップランナーがキリンで、うまく切り分けて整理して書かれているので、2022年の環境レポートは参考になる。
部会長	里山・里海のつながりの確保は大変重要で、戦略に盛り込む必要はある。具体的に行動計画に落とし込むにはどのようなものがあるだろうか。

委員	今回は文中に明確に書かないとしても、将来的な連携のイメージはもっておいで戦略を作成するのが良い。食料調達の依存度が高い自治体を調べて連携し、その地域に三田市の子供たちが出向いて環境学習や清掃活動などを実施するといったやり方も、産地になにかを還元する方法の1つになる。都市部の自治体はこのような取り組みを実施したいと考えているところが多い。
事務局	県と合同で啓発をするなども考えられるが、まずは県へ他市町村との連携を見せることも大事であると考えている。
部会長	「奥山（鎮守の森）の再生（宮脇方式など）」とあるが、宮脇方式は有効な面もあるが、問題も指摘されているので、あえて記載しなくて良い。
委員	「奥山も」とあるが、最近の研究結果などから里山と並列で良い。
部会長	奥山関連の課題として、最近、神社の拝殿の周りの鎮守の森の木が伐採されている。台風などで木が倒れて拝殿や近くの住宅への被害を防ぐために、あらかじめ大木を伐っている。伐採するとそのぶん再生するという両面があるが、そういう問題も戦略のなかで触れておいたほうが良い。
委員	課題の中にシカの害については出てくるが、イノシシが書かれてない。農家の方に伺うとイノシシのことも必ず出てくるので、イノシシについても書いておくのが良い。
委員	太陽光発電施設について書くのであれば、風力発電施設についても課題が生じたときは見直しをするなど、記載しておくのが良いのではないかと。
委員	「地域苗による緑化」とあるが、県の補助金は、木を植える、一年草を植えた場合はもらえるが、多年草のオミナエシなど地域苗を植えてももらえない。そこを何とかしないと地域苗は進まないということもこの場でアナウンスしておく。
事務局	（[アンケート事項]について意見聴取）
委員	自由記述のところで補足情報を得ることができる、他は経年変化をみるというのでいいのではないかと。
委員	すでに何かしら興味があり、あともう一步踏み出せば、里山活動に参加してもらえそうな人をターゲットにしているのか、全く何も知らない人入門してもらいたい人がターゲットなのか。今の案では、前者だけを対象としたものになっている。どちらかハッキリさせてから、設問を考えるのがいいのではないかと。また、例えば、アンケートに活動地の地図を入れるなどして、どのような活動であれば参加するかと尋ねるなど、具体的な場所がわかれば答えやすいのではないかと。ほかに、学校の先生への環境学習に対する認識に差があるので、子どもたち向けの環境学習はどんなものかいいかなども入れるのはどうか。

事務局	<p>アンケートについては、経年変化を一つの視点にして、もう一つは個別に聴きたいことをいくつか入れる。例えば、第3次環境基本計画のアンケートで皿池湿原の認知度を調べたが認知度は低かった。この5年で啓発に力を入れてきたので経年でどう変化したのかをみるのは意味があると思う。</p> <p>第4次環境基本計画で環境に関するアンケートを実施する。前回は生物多様性に関する設問も入れたが、設問が増えると回答しづらいということもあり、生物多様性戦略については別途アンケートを実施する。</p>
事務局	([タイトル]について意見聴取)
部会長	<p>三田市は、森市長の意向もあり、里山を活かしたまちづくりに取り組んでおられる。その意向を踏まえて、当部会でもその方向で議論をしていきたい。タイトルについては、議論が進んだところでみなさんからのご提案をいただく。</p>
委員	<p>タイトルの「さんだ里山戦略」について、日ごろから里山に関わっている者にとってはいいが、関わっていない人はどう感じられるのか。里山と付いていることで、川は関係ないというイメージを持たれないか。</p>
部会長	<p>それについては私も少し危惧しているが、市のこの戦略における里山の定義は広いものであることを上手く伝えることができれば、誤解はされないのではないかと思われる。</p>
委員	<p>里山の水辺といえば、農業用水路などをイメージするが、武庫川本流にも貴重な自然がたくさんある。武庫川を里山に入れてしまうのはいかがなものか。なので「さんだ里山・水辺戦略」と、水辺を入れてほしいという気はしている。</p>
部会長	<p>戦略の位置づけのページにも水辺の保全などのキーワードもあるので、里山と水辺をセットにするというのも一つの考え方である。</p>
事務局	<p>市の条例では里山の定義が大変広い。河川や水路、市街地の公園まで含まれるので、そこも上手く伝わるように説明しなければならない。里山は山だけではないのですよ、という取り組みの幅広さを、いかに伝えていくかということも施策の一つである。タイトルは決定ではない、議論が深まっていくなかで適宜ご意見いただく。</p>
部会長	<p>すでにある生物多様性関連の計画・施策を整理して一覧表にした資料を作成してもらいたい。</p>
事務局	<p>次回以降の部会開催日については、追って調整する。</p>
	以上